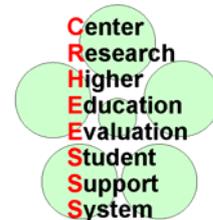


週刊センターニュース No.86



第86号(2005年11月21日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第97回 日時: 11月22日(火) 16:20~17:50

場所: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

発表者: 林 透(北陸先端科学技術大学院大学総務課)

テーマ: 「これからの大学職員のための提言」

趣旨: 近年、複雑さを極めている大学運営において、大学職員に対する期待が日増しに大きくなってきている。大学院における専門職養成や専門職団体の活動が脚光を浴びつつある中で、大学職員のこれからのあるべき姿について考える。

第98回 日時: 11月28日(月) 16:20~17:50

場所: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

発表者: 古畑 徹(文学部)、青野 透(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「大学・社会生活論の出席、評価」

第2回専門分野別教育開発セミナーのご案内

主催: 金沢大学大学教育開発・支援センター

テーマ: 「文系基礎とコア・カリキュラム」

日時: 平成17年12月11日(日) 13:30~17:30

会場: 金沢大学サテライトプラザ

開催趣旨: 一般教育と専門教育との有機的連携を目指す学士課程カリキュラム改革において、何をコモコアとして設定するかは大学の教育理念を色濃く反映するまさに核心的プロセスである。一方、近年の学生層の多様化は、学部教育の役割をより基礎的かつ広域的な教育へと移行させ、今年1月に中教審答申「我が国の高等教育の将来像」においては、学士課程について「教養教育」と「専門基礎教育」を中心とした再編が提言の一つとして述べられている。さらに、多くの学問分野においてパラダイムの転換が起こり流動化する今、旧来からの学問分野の相互の関係性を全体から眺め、新しい学問分野をその系譜に取り込むことがカリキュラム編成を検討する上で求められる。

以上のような学士課程カリキュラム改革を取り巻く状況を踏まえ、本セミナーにおいては、文系基礎とは何かについて考えてみたい。文学、法学、経済学など人文社会領域に属する各学問分野において何がコアとして教育されるべきか、さらに流動化する各学問分野にまたがる共通基礎を考える必要があるのか、あるとすればその共通基礎とは何かについて講演、報告を基に議論したい。

プログラム:

13:30~13:40 開会挨拶

13:40~14:40 基調講演 川嶋太津夫(神戸大学教授)

「学士課程カリキュラムの在り方: 専攻を超えて」

14:40~14:50 休憩

14:50~15:35 報告1: 鏡味治也(金沢大学文学部教授)

「専門共通科目と文学部教育」

15:35～16:20 報告2：東川浩二（金沢大学法学部助教授）

「導入教育としての法学概論」

16:20～16:30 休憩

16:30～17:25 ディスカッション

17:25～17:30 閉会挨拶

18:00～20:00 情報交換会（会場：スカイホテル）

* 準備のため、参加希望（セミナー、情報交換会それぞれについて）をメールにて西山（nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp）まで12月8日（木）までにお知らせください。

大学院の質保証：地域科学研究会主催の公開セミナーの概要紹介

東京に活動の本拠をおく「地域科学研究会」は、大学院の質保証問題を中心テーマに、11月17日に「新・大学院教育の質保証と政策シナリオ」、18日には「専門職大学院の本格展開と質保証」というタイトルの公開セミナーを催した。

筆者は、後者のセミナーに出席する機会を得たので、以下に、その概況について記すこととする。

公開セミナーは、2名の政府関係者と3名の大学関係者の講演で構成されていた。

まず、長谷川和弘氏（文部科学省）「専門職大学院の現状とこれからの可能性」では、専門職大学院制度の概要、専門職大学院の現状、形成支援・教育推進プログラムへの支援、中教審大学院答申等に見る専門職大学院の課題、専門職大学院認証評価システムと質保証問題、専門職大学院の新たな分野への発展方向などについて、講演がなされた。

二番目の松山泰浩氏（経済産業省）「専門職大学院と産学連携による人材育成」では、産業人材育成・確保を巡る問題、ものづくり分野等での専門職大学院等の設置促進の必要性、中小企業に対する「人づくり」支援、若年者対策と社会人基礎力の養成方策などについて、講演がなされた。

三番目の伊藤文雄氏（青山学院大学）「専門職大学院の認証評価と質保証システムの開発」では、専門職大学院に関する今日的状況に係る説明の後に、専門職大学院のカテゴリーとその中における「経営大学院」の位置づけ、経営大学院の質保証問題、グローバルに通用しうる経営大学院評価基準のあり方についての報告がなされ、最後に、経営大学院の質保証システムの開発方向について、具体的な提案がなされた（「ABEST 2.1」の立ち上げに向けた動き）。

四番目の石井正氏（大阪工業大学）「[大阪工業大]知的財産専門職大学院の開発と今後の展開」では、知的財産基本法の意義と「知的財産専門家」育成の必要性、いわゆる現状における知的財産専門家の水準・規模、知的財産専門職大学院の理念・目的（文系と理系の融合、社会人の再教育・実務連携、高度専門資格との連動性の問題も視野に置きつつ）等について講演がなされるとともに、今後の課題についても言及された。

五番目の阿部實氏（日本社会事業大学）「[日本社会大]福祉マネジメント研究科のコンセプトと教学運営」では、福祉マネジメント研究科設置の必要性、養成する福祉高度専門職の人材像、教育課程編成・教育課程の基本的考え方とその特質、設置認可申請時における文科省とのやり取りとその後の状況、福祉マネジメント研究科の当面の課題と今後の展望などについて、講演がなされた。

これら各講演に対し、多くの質問が提起され、活発な質疑応答が展開された。

（評価システム研究部門 早田）

F D等の資料収集に関するお願い

アメリカへの出張から帰国された中野節子先生（文学部）から、Princeton University の The McGraw Center についての資料をいただきました。パンフレットに “ for Teaching and Learning ” とあるセンターですので、当センターの活動に参考になりそうです。なお、当センターでは、国内外を問わず、大学教育に関する資料の収集を図っております。昨年、教育企画会議において教育担当の鹿野理事からもご案内いただきましたが、今後とも、各教職員の方々に、収集のご協力をお願いする次第です。（センター長 青野）